

29 ヨハネ 9 章 13-34

1、「内容観察」この箇所を自分の言葉で表現してみましょう。どんなことが記されてありますか？

※今日の箇所を読むときぜひ目を留めたいことは、「同じものを見ていても、どう見ているかで全く違った結果に至る」ということです。つまりねじれた罪の心は、偏見を生み出し、偏見は、神の業を見ても喜ばず、疑いと排除の行為に至る（信じると言っていないながらも拒否してしまう）のです。イエス様が盲目の人の目を開けたという業もメシヤ到来のしるしとも見れるし、当時のユダヤ人のように神への冒涇だとも見れるのです。そしてもう一つぜひ目を留めたいことは、それらの偏見や悪評を打ち破るものは、実体験だと言う事です。今日の最後頃には、元盲目だった方が、パリサイ人たちに力強い証しで打ち負かし、会堂から追放されるまでに至る経緯を見ることができます。一緒に学んでいきましょう。

2、盲目だった人の目が開かれたという神の奇跡を目の当たりにしながらも人々はその人をパリサイ人たちの所に連れて行ったとあります。なぜでしたか？（14）

※これは何を意味しているということでしょうか、みんなで話し合ってみましょう。

（参考）「安息日」について…出エジプト記 20:8-11, ヨベルの年について（レビ 25:8-10）

3、パリサイ人のうちのある者たちの見方と判断、他の人たちの見方と判断はどういうものでしたか？（16）

・当事者の見方と判断はどういうものでしたか？（17）

※この後パリサイ人たちは、彼の両親への尋問も始めます。本当は嬉しくて小躍りしたくなるような恵みなのに、喜ぶこともできず、まるで息子が悪いことでもしたかのような思いにされている両親の気持ちを考えてみましょう。

4、ぐだぐだとイエス様を悪者扱いするパリサイ人たちにしびれを切らした元盲目だった人の証を書き出してみましょう。

・（25）

・（27）

・（30-33）

※まるで鬼退治をしている桃太郎のようですね、つまり、聖書的知識がなく、長年の功績がなくても神の証人になれる秘訣は何だと思えますか？

※ご自分は「救い」について「聖め」についてまた「日々の主との交わり」について、実体験や証があるでしょうか？なお求め続ける者であらせていただきます。

5、今日の箇所を通して、神様はどのようなお方でしょう。またどんな約束、模範がある？またどんな注意、戒めがある？